

部	長	合	議	課	長	主	幹	課	長	補	佐	係	長	課	員	係	員
第 3 回敦賀市立地適正化計画策定委員会 会議録要旨																	
開催日時		平成 2 9 年 1 1 月 1 4 日 火曜日 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0										開催 場所		防災センター 3 階 災害対策本部室			
委 員		出席委員 7 名															
事務局		都市政策課															
1. 議題 (1) 都市機能誘導区域、居住誘導区域（案）、誘導施設の考え方について (2) 市民への中間説明会について 2. 会議要旨 議事に関する各委員からの主な意見 (1) 都市機能誘導区域、居住誘導区域（案）、誘導施設の考え方 (委) 将来的に居住誘導区域を中心市街地に誘導していきたいとの想いはわかるが、中心市街地を離れ郊外に移住した市民を誘導するための何か施策はあるのか。 ⇒ (事) 誘導施策については、今後、具体的な内容を検討していく予定である。 (委) 敦賀市の指標（すみやすさランキング等）について、全国的な位置づけを把握しているか。 ⇒ (事) 住みやすさランキング等は把握していないが、現況分析等からリーダーチャートは作成しており、市の特性等を把握している。 (委) 富山市や金沢市などの北陸地域の都市と比較するなどの分析は行っているのか。 ⇒ (事) 他の都市と比較はしていないが、県内において本市は、住みやすい都市であると考えている。住みやすさの観点については、現在資料を持ち合わせていないが、そのような観点で検討できるとよいと考えている。 (副委員長) 東洋経済オンラインが公表している「住みやすさランキング」の情報として、敦賀市は現在 3 0 ~ 6 0 位ぐらいである。																	

以前は、財政力の高さが要因となり、最高順位として２位の時期もあったが、現在は低迷している。しかしながら、今後、本市のランキングが上がる余地はあると考えている。

（副委員長）資料における言葉に注意が必要であると考える。

資料P15の居住誘導区域の説明「②国道２７号バイパスより北側」との表現は、一部範囲外のエリアがあるためよくない。資料P20の都市機能誘導区域への誘導の方針における都市機能の上述２項目（子育て支援機能、学校教育機能）は、居住を誘導する項目であり、直接関係がないと考える。P14の記述「まちなかへ」という表現は、これまで市が掲げてきた政策にそぐわないと考えるため再考してはどうか。

⇒（事）内容を修正する。

（委員長）P12の紫色にて表示している「集落拠点」は前回の「郊外居住エリア」でよいのではないか。

⇒（事）農村集落も含んでいるため、「郊外居住のエリア」に修正する。

（委）本市における居住誘導区域の現状について、居住誘導区域内外の人口は、把握しているのか。

⇒（事）平成２７年度の人口では、居住誘導区域内というより国道２７号より北側で約４５,０００人、郊外部には約２１,０００人がいると算定している。

（委）現在の居住誘導区域の計画範囲は、どのくらいの人口収容力があるのか。

⇒（事）収容力を算出はしていないが、今後の将来人口を約５６,０００人と仮定した場合、郊外から約４,０００人を誘導することで、現在の人口密度を確保できると考えている。

（委）用途地域の指定範囲について、現況とそぐわないことが本市の課題であり、用途地域の見直しが今後必要であると考える。また、山間部などの集落地域は、若者不足により、集落の崩壊が起こると考えられる。コンパクトシティだけではなく、既存集落の今後も考慮してほしい。

⇒（事）用途地域の相互は、今後予定している都市計画マスタープラン改正の中でも、用途地域の見直しなどを見据え、計画改正の検討を進めていきたいと考えている。

（委員長）これからのプロセス・プランニングの中において、既成市街地に人口を誘導できるか、既存集落の持続が可能なのかなど、様々な検討を行う必要がある。

⇒（事）今後、様々な見直し（都市計画マスタープランの改正、用途地域の見直し等）を実施しつつ、将来的な地域の持続やコミュニティの継ぎ目を目指し、市街地への誘導を実施していきたいと考えている。本市のこれまでの施策として、以前までは中心市街地活性化基本計画を活用しながら、助成を実施してきた経緯もある。今後は、これらの施策の方向性

も再検討し、計画を策定したいと考えている。

(委) 中心市街地における事業を活用した住宅建設の実績はあるのか。

⇒ (事) まちなかスマイル事業(平成20年から24年の5年間とした)として一戸建ての建設は46件実績がある。この実績値には、アパート建設、若年子育て支援などは含まれていない。

(委) 現在もその事業は継続しているのか。

⇒ (事) 平成24年で終了している。

(委員長) 誘導施策として、補助金などによる施策も考えられるが、市民への意識を誘導することも大事である。

(委) これから開催される市民説明会について、女性の立場から発言すると、本計画の内容がわかりやすいように、サブタイトルなどを考えてほしい
また、敦賀市で「立地」と聞くと原子力を連想する人が多いため、何か違う表現ができると良い。

資料P11のまちづくり基本方針について、「便利なまち」は、何が便利なのか理解しづらい。交通の便、買い物などの便利、公共施設への移動距離など便利な内容を明確に表現して欲しい。

資料の構成として、財政が厳しく、空き家が増えているなどの問題点を最初に説明し、これらの問題点を解決したい旨を市民に伝えて欲しい
他県においても郊外や集落に定住する若者は増えている。それらの事例を参考として、本市の郊外部や集落の魅力を伝えて欲しい。

計画の内容は、現行の計画で良いと考えている。

⇒ (事) 市民説明会では、本市の課題等わかりやすく伝えたいと考えている

(副委員長) 市民のコンセンサスがないと、本計画は成り立たないことを理解し、計画策定を進めて欲しい。

(委) 田舎へ住みたい人は、新聞の記事になるぐらい存在することを理解して欲しい。

本計画の中で、新幹線の整備計画に関する内容が反映している部分はあるのか。

⇒ (事) 特にない。

(委) 資料P10の表現「都市拠点を核として～」は、現時点において核となっていないため、再考してはどうか。

⇒ (事) 都市拠点を核という表現は、中心という意味をもたせているが、他の表現がないか検討する。

(2) 市民への中間説明会について

(委) 説明資料はわかりやすくよいと考えるが、16日から市民説明会の案内にサブタイトルをつけて、再度案内をすることは可能か。

⇒ (事) 案内はすでに終わっているため、修正は難しい。

(委員長) 「まちの未来を考える」などとしてはどうか。

(委) タイトルが漢字のみだと理解しづらい。

(副委員長) 「地区別の将来人口密度」を提示して説明した方がわかりやすい。

(委員長) まちづくりの将来像の表現として、「港まち敦賀」としたのはわかりやすくて良いと考える。

以上で策定委員会を終了。

3 閉会

- ※ (委員長) = 策定委員会委員長
- (副委員長) = 策定委員会副委員長
- (委) = 策定委員会の委員
- (事) = 事務局(都市政策課)
- (オ) = オブザーバー(嶺南振興局敦賀土木事務所)